

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891900124		
法人名	社会福祉法人三桂会		
事業所名	グループホームまんてんおの南		
所在地	小野市市場町1080-1		
自己評価作成日	令和5年12月6日	評価結果市町村受理日	令和6年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和5年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが第5種になり、暖冬のためか、世間では食中毒・インフルエンザ・带状疱疹・皮膚疾患での受診が増えているようです。まんてんおの南では『持ち込まない』『もちださない』『広げない』を徹底し感染予防に日々努めています。地域密着型サービスであり、地域との交流には常に意識をしています。地域の掃除などは男手が必要と聞き、男性職員に参加してもらっています。市場小学校との交流もコロナ禍ではほとんどありませんでしたが、今年から復活し、児童の方に施設内に入ってもらい見学や体験をして頂きました。また、定期的開催している運営推進会議では、初めて参加された地域の方は、市場町にこんな施設があったんや…と驚かれる事がありました。もっと地域に知ってもらわなければならないとお言葉を頂きました。今後も地域の方に安心できる施設として定着するように努力したいと思います。

コロナ禍の4年近く、感染対策を徹底し、入居者に感染者を出していない。地域との交流は、全て中止していたが、一昨年度から地域清掃、認知症サポーター養成講座、下校見守り隊、小学生の課外授業訪問など、徐々に復活させている。また運営推進会議も今年度からは対面開催に戻し、家族等との面会も居室での面会を再開した。事業所は季節の移ろいが感じられる自然豊かな所にあり、外に出る機会を作ったり、敷地でラジオ体操をしたりしている。誕生日には好物を食べに出かけたり、食事レクレーションやおやつ作りを月1回程度行うなど、食の楽しみも大切にしている。写真を沢山載せた通信を隔月で発行し、入居者の様子を知らせる手紙と写真も季節ごとに家族に送っている。協力医療機関と連携して看取り介護にも取り組んでおり、この2年間で3人の方が事業所で安らかな最期を迎えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホームまんてんおの南

評価機関:CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を軸に安心と安全が家族にも伝わるよう、日々の様子を電話、手紙、まんてん日和で伝えている。定期的にキャッチコピーを貼り替えている。	3箇条の法人理念に加えて4年前に職員で話し合って作った「つながる笑顔花咲くまんてん」というキャッチコピーを壁や窓など事業所内の複数個所に掲示している。笑顔を大切にし、笑顔で利用者に接するという姿勢を共有し、実践に努めている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市場地区として、クリーンキャンペーンや公民館の掃除参加している。又小学校の見守り隊に参加している。	以前は秋祭で子供神輿が立寄るなど様々な地域との交流があったが、コロナ禍で中止となった。一昨年度から地域清掃・認知症サポーター養成講座、昨年度は下校見守り隊、今年度は小学校の課外授業で児童が訪問するなど徐々に交流活動が復活している。	地域交流活動の復活が進んでいます。昨年再開した「小野地域と福祉をつなぐ会」の研修事業など、事業所特性を活かした地域貢献の活動を今後も進めていかれることを期待します。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市場小学校の小学4年生の児童が高齢者施設に課外授業として訪問してくれた。車椅子の使い方、ベッドのギャッチアップの方法、お風呂、トイレの見学をした。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度は運営推進会議を2カ月に1回実施。市場地区の民生児童委員の方には、都合をつけて頂き参加してもらっている。事故報告を行うことにより事故、ヒヤリハットに対して、意見を頂く事によって、職員の意識は定着している。	運営推進会議は必要な出席メンバーを揃え隔月で開催していた。コロナ禍で中止し書面開催としていたが、昨年度は2回、今年度は5月の第1回から連続して対面開催を復活している。出席者の活発な意見交換が行われ、議事録は全家族にも送付している。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	この度、入居者様から職員が手を強く握られ、労災で休業になったことを報告した。事故報告書の提出が必要か？など相談し、回答を頂いた。	市役所は運営推進会議に毎回出席しており、事故報告など必要時に適宜連絡を取っている。地域包括支援センターも運営推進会議に出席し、入居相談の紹介など日常的に連携している。市内グループホーム連絡会の再開をメンバーで1月に相談する予定である。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を何度も行い身体拘束の定義を学んでいる。月1回のカンファレンスや身体拘束適正委員会などで必要性を確認している。試し期間、拘束時間を短くするなどし、必要か不必要かを判断している。	虐待防止と併せた年2回の研修と、年4回及び随時の身体拘束適正化委員会を行っている。門は安全の為施錠しているが玄関と1階ユニット入口は日中開錠している。夜間にミトンをしている方と4点柵の方が1人ずついるが、必要性を随時見直している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の外傷を見つけた職員が外傷報告を記入し何による外傷か職員に考える機会を与えている。職員による外傷である場合は個別指導を行ったり介助方法を検討している。入居者様への声掛けなど不適切と思われる場合は、面談を行っている。	研修や委員会活動で職員の意識を高めている。職員が書く外傷報告書をもとに原因を考え、不適切ケアによる場合は話し合いや指導をしている。虐待の芽チェックリストを用いた研修を行うと共に、職員の心の健康にも目配りした面談を行っている。	
8		(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『成年後見制度と法テラスの活用方法について』の研修に参加し事業所内でフィードバックの研修を行った。まんてんの利用者様の担当の司法書士の先生に、必要がありそうな方の相談を行い、説明をして頂いた。	後見人の付く入居者が1人居たが他施設に転出した。制度が必要になりそうな方について司法書士に相談し、必要な時には本人に代わって署名してもらった。管理者とケアマネージャーが制度についての外部研修を受け事業所内で伝達研修を行った。	認知症高齢者の権利擁護は社会的課題でもあり、今後も益々ニーズが高まるでしょう。専門家によるものを含めて職員研修を継続され、スタッフの理解を深めていかれることを期待します。
9		(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね1時間程度で説明を行い、疑問や不安の確認を行っている。解約になる場合の説明を行いカスハラにならないよう心掛けている。転倒が起こりうることので了承を頂いている。	事前の説明に加え、契約時には重要な文書を読み上げるなどして1時間以上かけ丁寧に説明している。最期までみてもらえるかとの質問には、常習的大声や暴力は退去理由になること、常時医療が必要でなければ指針に沿い看取りも行うことを伝えている。	
10		(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加確認時に家族様からの意見を記入してもらうようにしている。家族様に電話をする機会ごとに要望の確認を行っている。	家族の意見や要望は来所時や運営推進会議出欠の返信葉書、電話等で伺う。今年度は、市役所から100歳の記念品等の贈呈を自宅で行うと言われたが空家なのでホームでしたいとの要望があり、事業所で贈呈式とお祝いの会を行って大いに盛り上げた。	
11		(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の面談時に運営について聞くようにしている。聞いた意見は、管理者が管理者会議で提案している。パート職員の時給について、提案した。	職員の意見は毎月のフロア毎のカンファレンスで、事前に意見を書く紙も配り聞き取っている。勤務・待遇等の要望は面談の際に聞く。各種委員会の際にも職員の意見・アイデアを活かしている。今年度は職員の提案でスライディングボードを購入した。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	世間の給料水準との開きが世間でも言われているがベースアップ加算を今年も取れた。今後も水準に近づけたいと発信している。サービス残業のない職場環境に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には認知症実践者研修に参加してもらい認知症ケアの方法を見直すことができた。法人内でも研修委員会を発足し、新人、中堅の研修を行っている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の運営推進会議、地域会議に参加している。他法人の夏祭りにも招待いただき関係を構築している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には当面1カ月のプランを作成し、1か月後にモニタリング・アセスメントを行い本プランを作成している。家族様には、面会制限がある状況でも、居室で面会をして頂き、安心して頂けるように努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談で困りごとなどを確認している。アセスメントを本人から聞けない場合キーパーソンより情報をもらっている。定期的に報告をしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな生活を求めているのか、又今後の方向性を確認を行っている。特養を希望される家族様には、どのタイミングで申し込み可能かの説明を行っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴から本人が求められている自分の姿に添えるよう声掛けを実施している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係性を断ち切らないように、かわりを持っていただいている。iPadで家族様と交流をされる方には、職員がお手伝いをしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の誕生日に、馴染みのあるお好み焼き屋へ出掛けた。お好み焼き屋の店主が、知り合いに連絡してくれ、たくさんの知り合いの方と楽しい時間を過ごされた。	家族と馴染みの理髪店や医院に行き食事もしてくる方、誕生日に馴染みの飲食店に行き昔の知人と交流した方がいる。玄関でのパティション越しに制限していた面会は11月から居室でも可能となった。季節毎に様子を知らせる手紙と写真を家族に送っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別ケア、全体レクなどを組み入れたレクリエーションを提供している。お話が好きな入居者様には、入居者様同士で会話ができるように席の移動を行っている。交流の為に2ユニット間で行き来することもある。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に帰られた方には、継続してお話をする機会を持っている。奥様が同一敷地内の小規模多機能を利用しており、自宅に行った際には、お話しをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を知り、環境因子を知ることで希望や意向に添えるよう家族とも相談している。	入居される際、家族より聞き取りを行い、生活歴や性格などを伺っている。日々過ごす中で気付いたことや体調の変化などは、朝夕の申し送りや毎月の会議などで共有し、安心して過ごせる方法を考え、介護計画やケアに反映させている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前には、面談を行っている。利用している通所先に行き様子をみたり、相談員や担当ケアマネから話を聞いている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活サイクルの聞き取りをして個別にスケジュールを組んでいる。居室担当の意見も記入して反映させている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し、居室担当者から意見を聞くようにしている。日勤者と夜勤者、看護師からの意見を考慮して家族の聞き取りをしている。	計画作成担当者と担当職員を中心に毎月モニタリングを行い、介護計画を作成している。必要があれば看護師にも参加してもらい、意見を取り入れる。介護計画より抜粋した項目について毎日のケアで実践状況を記録し、目標達成できるようにしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット導入により、数値化で表すことができ医療との連携も出来ている。写真が保存でき、状態把握ができ、職員間、医療関係者との情報共有出来ている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリがしたいという方には、必要性をわかりつけ医に相談し訪問マッサージの施工をしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受診など重度化している方は介護タクシーの利用を頼んでいる。毎週金曜日はコープの移動販売者が来て好きなお菓子を選んでもらっている。またヤクルトの定期購入をされている方もいる。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は入居時に家族様に決めていただいている。入居前のかかりつけ医を継続している方もいる。	協力病院の医師でなく、入居前からのかかりつけ医を継続している方が半数ほどおられ、定期的な往診を受けている。往診以外にも、併設する小規模多機能の看護師のケアもある。担当医には、日々の様子や気になることなど報告し、連携を図っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪看に来ていただいている。同一敷地内の事業所の看護師にも情報共有をし相談に乗ってもらっている。訪看には特変がある場合や病状での疑問を適時相談をしている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとの連携をもつようにしている。入院されたときは情報を提供している。退院カンファにも参加している。	入院時には、介護サマリーを作成し早期退院に向け情報提供を行っている。また感染防止の為お見舞いが出来ない時には、地域医療連携室とこまめに連絡を取っていた。退院時のカンファレンスにも参加し、スムーズに利用再開できるよう対応している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の説明をしている。体調の変化や終末期が訪れた時は、まんてんおの南で過ごされるメリットデメリットの説明をしている。	重度化した場合の対応について、出来ることと出来ないことの説明をしている。往診医より病状説明を受け、家族の希望を確認し、可能であれば看取りを行っている。看取り中は面会を24時間受け入れている。看取り後はカンファレンスも行っている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している。申し送り時やカンファレンス時に確認をしている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災避難訓練と年1回の災害避難訓練を実施している。先日は、避難先のエクラに入居者様と行ってきた。	年2回の避難訓練には消防署も立ち合い、指導を受けている。水消火器を使った訓練や1階の窓から車椅子で避難する練習なども行っている。緊急時には近隣在住の職員に連絡をする段取りも出来ている。食料や水の備蓄品も3日分の確保が出来ている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室をプライバシーな空間と位置づけ特別な時以外は許可を取り入室している。	言葉かけや対応について、気になることがあれば管理者に相談があり、カメラで確認しながら指導を行っている。また、接遇研修を通して自身の振り返りも行っている。なじみの播州弁で話すなど、その方に合わせた言葉を使う工夫もしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパン、白米を自由に選んでいただいている。嗜好品も自由に召し上がっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室担当医が入浴の時間を決めたり起床時間もその人に合わせている。外に行きたいなどの訴えがあった場合は、中庭に出たりしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみが出来るひとは本人に任せている。化粧品も以前から使用しているものを使われている。消費してしまった場合は、家族様に連絡し、購入をお願いしている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族が持参された嗜好品を提供し召し上がって頂いている。コロナが5種になり季節毎の食レクも復活した。	米飯はフロアで炊き、朝食はごはんとパンを選ぶことが出来る。自分の箸・茶碗・湯呑を使い、他の食器も陶器である。嚥下状態に合わせた食形態も提供する。季節ごとの食事レクリエーションやバーベキュー、おやつ作りなど企画し、大変喜ばれている。	季節ごとの食事レクリエーションを、入居者の皆さんがとても喜ばれている様と感じました。人手確保等の面で可能になればもう少し回数を増やしてみたいかがでしょうか？	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誕生日には好きな居酒屋でお好み焼きを食べてもらったりパフェやおはぎなど季節の食レクができた。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士から職員が指導を受け、1人1人に合わせたケアをしている。個人個人で歯ブラシの形態を変えている			
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方は、時間をみてトイレ誘導を行っている。タブレット記入になったことで抜け減り、個々のパターンの把握がしやすくなり、パット汚染が減っている。	タブレットを使用し個々の排泄状況を確認するようにしてから、タイミングよく誘うことができ、トイレで排泄することが増えている。夜間はオムツで対応する方もいるが、自分で行ける方にはポータブルトイレを置くなどの支援も行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には牛乳やヨーグルト、ヤクルトなどの定期購入をお願いしている。無排便が続く場合は、暖かい牛乳の提供やお腹を温めることもしている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	柚子湯や菖蒲湯などの季節を感じていただき入浴を促している。入浴出来ないときも足浴手浴をしている。血圧の加減や、機嫌の加減により、個々に合わせた入浴を行っている。	週に2～3回入浴している。血圧が落ち着いた時間や希望に合わせて入浴することもできる。また入浴が出来ない方には手浴や足浴、清拭も行っている。職員が自宅より持参した柚子を浮かべ柚子湯にしたり、しょうぶ湯など季節のお湯も楽しんでいる。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で自分の使っていたリクライニングチェアを持参され使用されている。フロアで使用されている方や、和室で使用されている方もいる。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは調剤薬局に依頼している(居宅療養支援)薬の成分やわからないことは、その都度相談して教えてもらっている。服薬は嚥下状態に合わせて提供している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵など役割を持ってもらい完成することで達成感を感じてもらえるように作品作りをしている。個々に合わせた、字合わせを提供し、楽しんでもらっている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出の機会を設けている。誕生日など、個別にその方の希望で外出や外食に出かけている。	初詣や花見、ヒマワリ畑など、季節が感じられる外出を楽しんでいる。誕生日にはその方の希望を聞き、外出や外食に行くこともある。毎週金曜日に来る移動販売車を楽しみにしている方もいる。気候の良い時期は、皆で外に出てラジオ体操をしている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金曜日の移動販売車には自分の財布を持って好きなお菓子など1～3個購入されている方が数名おられる。他の方は、金銭管理が難しくなっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のお孫様から毎日の電話がかかる方がいる。また、家族様が居室にiPadを設置し、19時になると、会話をされている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓に絵を貼り夜間の不安解消に役立っている。大きなカレンダーや日めくり(手作り)で日の確認をしている。季節ごとに貼り絵などは替えている。	季節の装飾がされた明るい共用空間になっている。小上がりの畳スペースの窓には、外に向けて作品が掲示してある。皆で洗濯物を畳んだり、団らんする場にもなっている。空気清浄機や加湿器も設置し、換気や消毒など感染対策も行っている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル毎になじみの関係が出来ている。居室はプライベートの空間ではあるがほかの人の部屋を訪室することもある。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具も低いとその上に登ったり壊してみたりされる。放尿をされる方もいるが、現状の心身状態に合わせたケアを行っている。布団は自分が使っていたものを持参される方もあった。	タンス、ベッド、エアコンが備えつけてあり、自宅の椅子や小さなタンスを置いたり、写真や塗り絵など作品を飾っている。安全のため窓には3ヶ所施錠しているが、必要時はすぐに開けることが出来る。その方に合わせてレイアウトを変更することもできる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具の活用によりできる事を方法を変えて継続していただいている。		